

北海道大学
日本語
スタンダードズ
2016 年度版



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

〈北海道大学日本語スタンダードとは〉

本センターは、留学生と日本人学生がともに学び、様々な社会的な問題の解決に向けた新たな手段、文化を継続かつ具体的に生み出していけるような、新たな社会構築のための即戦力となる人材養成を目指している。そのために、平成23年度より外国人留学生と日本人学生が協働して学ぶ交流授業「多文化交流科目」を創設し、センターで提供する日本語コースの中核に据えている。「多文化交流科目」で育成を目指すスキルは以下の通り、大きく3つに分けることができる。

多文化交流科目で育成を目指すスキル

3 解決に向け 実行する

- チームワーク
- リーダーシップ
- 交渉力
- 情報活用力

- ・ グループやチームでの活動で自分の役割を見つけ、積極的に行動できる。
- ・ 互いに配慮しつつ、グループやチームでの活動を前進させることができる。
- ・ 互いの意見を尊重し、協力して課題に取り組むことができる。活動のなかで互いの妥協点を見つけることができる。
- ・ 収集した情報・資料を適切な方法で分析し、場面・目的に応じて活用することができる。

2 ともに 考える

- ファシリテーション
- 説得力
- 論理的思考力
- ディスカッション
- コミュニケーション力

- ・ 自分の意見をわかりやすく簡潔にまとめ、それをグループやチームで企画・運営につなげることができる。
- ・ 自分の意見を論理的に順序立てて伝え、相手を説得することができる。
- ・ 客観的なデータに基づき、自分の主張を論理的に組み立てることができる。
- ・ グループで理解を共有し、議論することができる。
- ・ 相手の意見に対し、適切かつ柔軟に対応・質問することができる。

1 課題を 認識する

- 分析力
- 情報収集力
- 多様性への気づき
認識する
- 異文化理解
- 課題発見

- ・ 講義や他者の話を聞き、その内容を客観的に把握・理解することができる。
- ・ 適切な情報を検索・収集し、それを整理・精査することができる。
- ・ 異なる文化・価値観・態度を尊重することができる。
- ・ 自分の母語や文化について客観的に考えることができる。
- ・ 講義や自ら調べて得た情報を、身近な事柄に引き付けて考えることができる。また、その課題を指摘することができる。

それに伴い、従来の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能に、「漢字語彙」と「文法」を加えた6科目でなされていた日本語コース・カリキュラムを改編し、留学生と日本人学生が協働して行う活動を支える「ことば」「コミュニケーション」としての日本語教育を提供している。本スタンダード(表1～2)はそのために必要な日本語とは何かを「レベル別」および「モード別」に記述したものである。

〈レベル設定〉

レベルとしては、最上級のレベルに「多文化交流科目」を据え、その下に従来の日本語コースのレベルに合わせて上級1レベル、中級3レベル、初級4レベルの8レベルを設定している^注。上級は「多文化交流科目」とほぼ同じレベルで、「多文化交流科目」で必要とされる各スキルの弱い部分を、学習者が自ら選択してトレーニングできるようにトピックまたはスキル別に設定されている。また、初級レベルで目指すのはいわゆる市販されている初級日本語教材の修了レベルであり、この上級と初級の間に中級の3レベルを設定している。

〈モード設定〉

コミュニケーション能力の記述には、21世紀のグローバル社会を生き抜く資質・能力を獲得し、言語を使ってつながりを作り、他者と協働して社会を創造していくことを言語教育の目標としている「外国語学習のめやす」(<http://www.tjf.or.jp/meyasu/>)を参考に、以下の「やりとり」「理解」「表現」の3つのモードで示している。

① やりとりモード

話す・聞く
(日常会話、討論、電話など)

書く・読む
(メール交換など)

② 理解モード

聞く
(テレビ、ラジオ、放送、案内、講義など)

読む
(広告、新聞、小説、論文など)

③ 表現モード

話す
(プレゼンテーション、スピーチなど)

書く
(レポート、ポスターなど)

〈レベル別言語行動目標〉

レベル別に言語行動目標を示したものが表1である。上記「多文化交流科目」で行う活動に必要な言語行動を「やりとり」「理解」「表現」のモード別に抽出して示し、それらを支える日本語を上級から初級までレベル別に示したものである。

〈北大日本語スタンダードモード別一覧表〉

表2-1～3がそれぞれ「やりとり」「理解」「表現」のモード別一覧表である。これは、表1の中上級4レベルの「言語行動目標」を達成するための「スキル」「アウトカム」を記述したものである。表中、レベルの分類基準と記載基準は以下の通りであり、「記載基準」の(1)～(3)は、表2-1～3の「スキル」「アウトカム」欄の(1)～(3)にそれぞれ対応している。

モード	レベルの基準	記載基準
やりとり	<ul style="list-style-type: none">・ 日常的な話題から抽象的な話題へ・ 大まかな説明から細かい説明へ・ 命題重視から待遇重視へ・ 短い表出・理解から長い表出・理解へ・ 既習内容の活用から応用へ	<ol style="list-style-type: none">(1) 内容の幅と深さ(2) 働きかけ(3) 反応
理解	<ul style="list-style-type: none">・ 短いものから長いものへ・ 事実説明から幅広く専門的なジャンルへ・ 単独のストラテジーから複雑かつ複数のストラテジー使用へ・ 大まかな理解から速く正確な理解へ・ 既習内容の確実な理解から応用へ	<ol style="list-style-type: none">(1) 対象となる内容(2) ストラテジー(3) 解釈レベルの程度
表現	<ul style="list-style-type: none">・ レポートを書くためのパーツから段落のある論理的な構造のある文章へ・ 正確でより複雑な表現へ・ データや引用を用いたより客観的で論理的なものへ・ 短いものから長いプレゼンへ	<ol style="list-style-type: none">(1) 使われる表現(2) 組み立て能力(3) プレゼン技法

なお、初級は目的、対象、期間等の異なるコースが複数並行して行われていることから、モード別にせず、従来の「文法」「口頭表現」「漢字語彙」の3科目で表1の言語行動目標に基づいて行っている。

3モード別に掲載されている「言語行動目標」「スキル」「アウトカム」が意味するものは、以下の通りである。

「言語行動目標」：「多文化交流科目」の目的を達成するために、各レベルでできるようになることを目指すもの

「スキル」：言語行動目標を可能にするために、各レベルで身に付けることが必要となる具体的な言語行動

「アウトカム」：授業活動において言語行動目標を達成したことを示す、より具体的な言語行動

注) 当初、「多文化交流科目」は最上級レベルとして開設したが、最終的には学習者がレベルを問わず自由に履修できる方向性を考え、現在初・中級日本語レベルの「多文化交流科目」の整備を行っている。

表1 レベル別言語行動目標

レベル	やりとり	理解	表現
多文化交流科目	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を論理的に伝え、相手を説得することができる。 小グループで理解を共有し、各自の意見を出し合い、まとめることができる。 ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 専門家の解説に対して適切に反応、質問することができる。 目的と場面にあわせて適切な文面・メールを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学術的な内容を詳細に理解することができる。 内容を客観的に理解し、身近な事柄に引きつけて考えることができる。 目的に応じて必要な情報を適切な方法で検索・収集することができる。 得られた情報を適切に整理、精査し、固有のテーマや課題を見出すことができる。 収集した情報・データを適切な方法で集計・分析し、目的に応じて活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解した内容と自分の意見を、わかりやすく簡略にまとめて発表することができる。 調べた内容と自分の意見を、説得力ある文章にまとめることができる。 見学した内容について道筋を立てて論理的に文章化することができる。 目的に合った調査方法を検討し、実施することができる。 実際の活動の計画を組み立て、明示化した上で実践することができる。
上級	<p>相容れない話題や場面において、平等に意見を共有しつつ、もっとも効果的な方法で議論し合って相互理解を導くことで、共通の目的の達成に寄与することができる。</p>	<p>目的に応じて情報を集め、高度な内容を詳細に理解し、分析、活用することができる。</p>	<p>TPOを配慮した適切な語句を選択し、説得力のある表現技法を用いて効果的に記述・表現できる。</p>
中級3	<p>自分が言いたいことを様々な表現を効果的に使って流暢かつ自然に表現することができ、相手に対して柔軟に効果的に対応することができる。</p>	<p>トピックに関係なく、長くて複雑な内容を詳細に理解することができる。</p>	<p>複雑な話題について、論理的に明瞭かつ詳細に記述・表現することができる。</p>
中級2	<p>より幅広い話題について、正確に言葉を使うことができ、その場にふさわしい丁寧さで、お互いにストレスを感じることなく、対話や関係を維持しながら自然にやりとりができる。</p>	<p>適切なリソースを使い、様々な目的や内容の種類に合わせて読み方・聞き方を変えながら、ポイントを理解することができる。</p>	<p>様々な話題について、関連する情報を活用しながら、明確かつ詳細に記述・表現することができる。</p>
中級1	<p>日常的话题だけでなく、非日常的で抽象的な話題についても、自分の意見を表明したり、情報を交換したり、話し合いをすることができる。</p>	<p>簡潔な事実関係の内容を、十分に理解することができる。</p>	<p>より広い範囲の事柄について、ある程度まとめた内容を、正確で適切な語句や文を使って記述・表現することができる。</p>
初級4	<p>自分が想定していない状況においても、学んだ語句や文を使って、相手の協力を得られれば、自分の意見を表明したり、情報を交換したりできる。</p>	<p>短い簡単な内容を理解することができる。</p>	<p>自分の身の周りや関心のある事柄について、ある程度まとめた内容を、趣旨が通じる程度に表現することができる。</p>
初級3	<p>自分が想定している範囲で、学んだ語句や文から選択して、相手の協力を得られればやりとりができる。</p>	<p>よく耳にしたり目にしたりする語句や文を理解することができる。</p>	<p>自分にとって身近な事柄を、短い語句や文を並べて表現することができる。</p>
初級2 / 1	<p>自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば簡単なやりとりができる。</p>	<p>よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。</p>	<p>自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。</p>

表 2-1 やりとり

レベル	スキル	アウトカム
上級	<ul style="list-style-type: none"> (1) 複合的に絡み合ったり相互の主観がぶつかり合う状況を回避することなく、積極的に対応することができる。 (2) 立場の違いによる主張を交渉、説得、調整しながら、ファシリテーターとしての役割を果たすことができる。 (3) 他人の意見やコメントに柔軟に反応し、的確な質問・コメントを行うことで、全体の円滑な進行に役立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 政治姿勢や差別などの諸社会問題、また利害が相反する場面などで、各自の意見を必要十分な程度で出し合い、まとめることができる。 (2) 感じの良い話し方を用いて、使用する文脈とその効果を十分に理解した上で言葉を駆使し、やりとりを促進、活性化することができる。 (3) 相手の意見に上手に反論・訂正でき、さらに相手の反応に応じて自分の話し方を適切に変えながら、関係改善に向けてやりとりを操作することができる。
中級 3	<ul style="list-style-type: none"> (1) 複雑で高度な話題について、互いの情報や意見を有効に活用してやりとりすることができる。 (2) 話しにくい事柄についても、相手の気分を害することなく、適切な表現を使って述べるができる。 (3) 微妙なニュアンスに隠された言外の意味を理解し、正しく反応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 経済、政治、法律、科学など、様々な話題について、互いの情報を交換したり、意見を調整したりしながら、話をうまくまとめることができる。 (2) 垣根表現（ぼかし）や言いさし表現、敬語などを的確かつ効果的に利用し、違和感なく話を続けることができる。 (3) 相手の遠回し表現などから社会的習慣を読み取り、ふさわしい度合いでことばを返すことができる。
中級 2	<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々なジャンルの話題について、内容の度合いを調整しながらやりとりすることができる。 (2) 場面の改まり度にあった述べ方ができる。 (3) 相手の反応にあわせて述べ方を変えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の関心事について相手の興味を誘って述べるができ、相手の関心事について質問などを交えながら適切に反応することができる。 (2) フォーマルな場面で、簡単な前置きや定型表現などを添えることができる。 (3) 相手の反応を見ながら、適切なフィラーや相づちなどを入れたり、必要な情報を追加したりして対応することができる。
中級 1	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身近な話題について、知っていることや自分の考えを簡単に述べたり、相手に発言を求めたりすることができる。 (2) 相手に自分の意図を正確に伝えることができる。 (3) 相手の話に正しく反応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の専攻、母国の文化・社会について短く説明したり、相手にも同じようなことを質問したりすることができる。 (2) 話の目的と背景（事実関係）が正しく伝わるように、正確な接続詞と表現を使って述べることができ、相手に正しく理解されなかったときは、話の内容を修正することができる。 (3) 相手にわかりやすく、適切な形で聞き返したり同調したりすることができる。

表 2-2 理解

レベル	スキル	アウトカム
上級	<ul style="list-style-type: none"> (1) 専門的学術的な内容を理解し、自分の言葉・文脈で説明することができる。 (2) 適切な方法で必要な情報を検索・収集することができる。 (3) 情報を適切に整理、精査することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 専門的学術的な講義や解説などを聞いたり、論文や学術書、記事などを読んで詳細に理解し、内容についてわかりやすく説明することができる。 (2) 目的に応じて必要な情報をさまざまなリソースの中から適切な方法を取捨選択し、検索・収集することができる。 (3) 収集したさまざまな情報やデータを集計してまとめ、結論を導いたり、比較したり、批判的に分析して課題やテーマを見つけたりすることができる。
中級3	<ul style="list-style-type: none"> (1) より広いジャンルの長くて複雑な発話や会話、文章を理解することができる。 (2) 複数のストラテジーを適切に使って理解することができる。 (3) 詳細に内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) ニュース・講義・ドキュメンタリーなどを視聴したり、複雑で情報が不十分な会話を聞いたり、長い意見文・論説文、広告、チラシ、パンフレット、情報誌、雑誌、新聞記事などを読んだりして理解することができる。 (2) 序論・本論・結論などの構成や表・グラフなどのデータを踏まえる、スキミングやスキニングなどのストラテジーを目的に応じて適切に組み合わせたり選択したりして読んだり聞いたりすることができる。 (3) ポイントだけでなく、話し手や書き手の構成や意図に沿って全体を詳細に理解することができる。
中級2	<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々なジャンルのまとまった発話や会話、文章を理解することができる。 (2) 目的や内容に応じて様々な聞き方や読み方を使うことができる。 (3) 内容のポイントを確実に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 3、4段落の独話による説明文やまとまった会話を聞いたり、説明文や物語文、エッセイを読んだりして、理解することができる。 (2) 図表の情報やキーワード、表現、人間関係、場面、文脈などを捉えて予測や推測をしながら読んだり聞いたりすることができる。 (3) 話し手・書き手が伝えたいこと、その意図や論点、気持ちを確実に理解することができる。
中級1	<ul style="list-style-type: none"> (1) ある程度まとまった発話や会話、文章を理解することができる。 (2) 使われている文法や語彙、表現にもとづいてボトムアップで理解することができる。 (3) 短文や話し言葉の特徴がある発話を正確に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 2、3段落の独話による説明文やあるトピックについての会話を聞いたり、2、3段落の説明文や簡単なエッセイを読んだりして、内容を理解することができる。 (2) 文章構造、時間的表現、指示語、文末表現などを意識しながら、聞いたり読んだりすることができる。 (3) 音声変化や音調などの話し言葉の特徴がある発話や、初級の既習項目からなる短文を聞いたり読んだりして、早く正確に理解することができる。

表 2-3 表現

レベル	スキル	アウトカム
上級	<ul style="list-style-type: none"> (1) 場面にふさわしい表現・読み手あるいは聞き手にとってわかりやすい表現について考慮し、表現を使い分けすることができる。 (2) 図や表を適切に引用し、質・量ともに適切な関連情報を用い、明確な構成を以て提示し、記述・表現できる。 (3) 扱うトピックについての関連情報を適宜加え、根拠に基づいて論理的かつ詳細に記述・表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 類似表現についての使用例を知り、場面にふさわしい使い分けができる。漢語と和語のバランスについて自ら吟味できる。 (2) 発表する内容や場、聞き手についてじゅうぶん配慮し、時系列／包含／対立等々の構成を検討したうえで、文章を書いたり、わかりやすい表現を検討したうえで表現したりできる。 (3) レジюмеやスライドを使い、キーワード等を頼りに聴衆に働きかけながら、明確な構造を持った長めの発表ができ、説得力のある発表ができる。
中級 3	<ul style="list-style-type: none"> (1) 複雑な話題についてより高度な表現を使って述べることができる。 (2) 論理的に意見を述べたり、段落を用いて論理的な文章を書くことができる。 (3) 説得力のあるプレゼンテーションができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 名詞化、連用中止法、適切な接続詞、仮定や否定等の内容に応じたニュアンスを加えた表現を用いることができる。 (2) 序論・本論・結論等の構成で、簡単なレポートを書いたり、根拠のある意見を述べ、ディスカッションができる。 (3) 有効な媒体を適切に使って、自分の専門などについて 10 分程度のプレゼンテーションをすることができる。
中級 2	<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々な話題についてより適切な表現を使って述べることができる。 (2) より適切に文章を組み立て、明確に意見を述べるができる。 (3) わかりやすくスピーチやプレゼンテーションをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 類似表現を使い分けたり、表やグラフなどのデータを用いるための表現を使って、共通点と相違点、物事の変化などの事実について客観的に述べるができる。 (2) 引用やデータを用いて意見を述べたり、推量、判断、主張などの自分の考えについて根拠をもって述べるができる。 (3) 決められた時間や量に応じてスピーチやプレゼンテーションをしたり、文章や視聴した内容を要約して表現することができる。
中級 1	<ul style="list-style-type: none"> (1) アカデミックな場面で必要な表現を使うことができる。 (2) 適切に文章を組み立て、記述・表現することができる。 (3) 意見を述べたり、まとまった内容を発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 書き言葉と話し言葉の違いを理解し、指示詞や理由、目的、結果、比較、定義の表現などを用いることができる。 (2) 接続詞を用いて文章を組み立てたり、句読点や文章の構成を理解して、段落を用いて文章を展開することができる。 (3) 2、3 分の発表をすることができる。



北海道大学国際本部グローバル教育推進センター
日本語・国際教育研究部門